



三井新成議員

地元高校生の町内就職・就農について

高校と行政・地域の人たちとの絆を作っていく

質問・・・富士見高校卒業生の町内就職、就農の実態は。

町長・・・毎年3名から5名程度が町内企業に就職している。就農する生徒はいない。

質問・・・町内に就職、就農を希望する生徒に奨学金支給を対象とした支援制度を作る考えは。

町長・・・就農を中心に考えており、役場の担当課が体験支援等を行って

いる。奨学金等の金銭面での支援は考えていない。平成26年度より具体的な取り組みとして園芸科の生徒を対象に実践的な、学校では学ぶことのできない農業体験を二年生5人が夏休みに2日間体験した。27年度も7月に実施する。本年度は、町内で大規模にレタス栽培を行っている農業法人にて予定している。また平成26年の卒業生のうち2名が、卒業後に県内での就農をすることを前提に県立の農業大

学校に進学している。

質問・・・今後、行政と富士見高校との接点を町長としてどう考えているか。

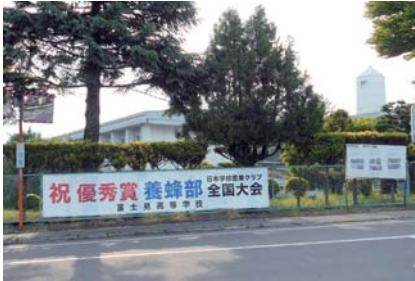
町長・・・富士見高校は地元の高校であり、特色のある、町民との関わりのある高校と考えている。行政として生徒が実習できる場の提供や、町民の方々より花畑の提供

をいただく事は有効な事と考えている。生徒による日本ミツバチの研究や釜無ホテイアツモリソウの再生研究等での論文大会での活躍のほか、赤とんぼの生徒と共にワッフルの制作をする福祉活動も行っている。地域と学校をつなげる絆を作るために町行政が協力して、地元の皆様とのコミュニケーションづくりをすることが行政の役目と考えている。

【その他の質問】

○スクールバスについて

○告知放送について



小林市子議員

テレワーク構想は、住民の理解が不十分では

100人の若者の定住による波及効果が大きい

質問・・・サテライトオフィス整備事業について、今後5年間の事業スケジュール計画は。

町長・・・最初の年は50人が無料体験して、定住は2年目位からと予想。1人の若者が定住して、4人家族が出来る。その影響は富士見町にとって

税収、上下水道料、消費など波及効果が大きい。トライアルの中で、初期設置料は、国が1億2千万円、町が1億5千万円

ですが、地方創生の目玉は、テレワークである。国は、この事業に期待している。町は何としても成功させたい。

質問・・・この整備事業の財産、管理運営、契約等の形態は。

町長・・・改修した楽山荘等については、無償で使う。損益については、赤字を出さない事を基本とし、2年目からは

オフィス代として家賃をもらうが、家賃については、東京などの同様な環境を調査し、半額位で提供したい。

総務課長・・・楽山荘については、富士見町の普通財産とした解釈。町が事業主体であり、運用については使用貸借契約をして、対価は頂かない。入居者に対しては、2年

目からは、光熱費、上下水道料等コストは実費。質問・・・これからは、人口減少に対応した子育て

支援、教育環境の整備や転出した子供たちのUターンに備えた政策が課題では。

町長・・・子育てや教育をもっと進めて魅力を高めたらもっと人口が増えるのではないかと考える方には、私は賛成できません。

それには、収入、仕事、経済がまずあって、若者100人が減っている状況では、何も前に進みません。

テレワークと言う新しい働き方の概念が今まで日本で無かったから、理解が進まないが、マクロで考えると、地方創生として東京から人が流れてくる可能性があると言う事。若者100人を取り戻す事が目標です。

【その他の質問】

○富士見町の未来づくりに